

## ○網野光議長

次に、白石榮子議員の市政に対する質問をお受けいたします。

10番 白石榮子議員。

〔白石榮子議員登壇〕

## ○白石榮子議員

10番白石榮子です。子育てしやすいまちづくりについてお尋ねいたします。

はじめに、私どもの地域の状況をお知らせしたいと思います。合併と同時に市も広範囲となり、多くの企業も進出し、新興住宅も増え、久喜市も近隣にも誇りうる市として進展しております。日本は一言に少子高齢化時代とか高齢化社会とか申しますが、このような時代であるからこそ、活気あふれる生活と元気あふれる子どもの声などが、かけがえのないものだと思います。

鷲宮地区では、「乳幼児をもつ子育て世帯が多い」「半数以上が核家族である」という地域性があります。乳幼児数や児童数も増え、多くの方々が「家庭や子育てと仕事の両立」「安心安全な子育て」をしたいと願い、市の政策に関心を持ち、住み良い街へ期待しております。

私は現在民生委員・児童委員の委嘱をいただいております。そこで、地域におけるつながり役としてお伺いいたします。

はじめに、保育についてです。平成27年4月より、子ども・子育て支援新制度が施行されました。この新制度の施行を踏まえ、取り組みと進展についてお尋ねをいたします。新制度は、質の高い幼児教育と、幼稚園・保育所・認定こども園との連携を目標としていますが、園利用者及び利用希望者からは戸惑いの声も聞かれます。

そこで例を申し上げます。

新制度の施行前に、第2子を出産して育児休暇に入るため、第1子はこれまで通っていた保育所を退所して、幼稚園に入園しました。育児休暇が終わり復職のため、兄弟ともに同じ保育所への入所を希望いたしましたが、第2子のみが保育所に入所し、第1子は幼稚園のままでございます。現在、第1子は幼稚園に通いながら、第2子の通う保育所の空きができるのを待機しています。

第2に、ひとり親世帯で母親が働かなければならないため、久喜市内の保育所と市内での就職を希望いたしましたが、希望していた保育所には空きがありません

でした。そこでしかたなく久喜市外の職場を探し、送迎可能な市外の保育所に入所して現在に至っております。

このような状況から「どうしても仕事を持ちたい」と切実に望む人が、安心して働き子育てをするには、まだまだハードルが高いと感じます。そこで、次のことを伺いいたします。

(1) 子ども・子育て支援新制度が施行されましたが、保育所の待機児童解消のために市はどのようなことを計画しておりますでしょうか。

(2) 就業支援、就業支援講習、生活相談など、ひとり親世帯で働きたい母親のためには一貫した支援が必要だと思います。市はどのような支援を行っておりますか。

保育時間の長さを考えますと、仕事を持つ親は保育所を希望する方が多いと思います。幼児保育も新制度の枠組みの中で、見直しを重ねることで充実していくと思われま。このような状況を知っていただき、どうぞきめ細やかな配慮をよろしくお願いいたします。

次に、放課後児童クラブについてです。新制度により、放課後児童クラブの対象者は小学校6年生までに拡大されました。現在は特に、桜田小学校の児童数が増加していることから、放課後児童クラブの利用者も増加しております。施設が狭いという声もお聞きいたしました。放課後児童クラブは児童にとって楽しい所であってほしいと思うところでございます。そこで、3つ目の質問といたしまして、

(3) 東鷲宮地域では放課後児童クラブの利用者が急増しておりますが、市は何か対策を考えていますか。

このことを伺いし、さらなる期待をいたします。

最後に道路整備についての質問です。

(4) JR 東鷲宮駅の南側と北側には地下道があります。北側の地下道は、下に車道、側面に狭い歩道となっており、一部児童が通学路として利用しています。北側の地下道は照明が暗く、車の騒音も響き、子どもが一人で歩くのはとても不安を感じています。南側の地下道は階段も急で、ベビーカーの移動も一般通行者も利用困難な状況でございます。照明を明るくすることはできませんでしょうか。また、改修の予定などはいかがでしょう。

安全に配慮した道路整備の推進を希望いたしますとともに、今後も地域の実情に即した多様な支援、財政支援等、自治体の関係機関の方々の知恵と実行を切に望みます。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

### ○網野光議長

白石榮子議員の質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔田中暄二市長登壇〕

### ○田中暄二市長

白石榮子議員のご質問に対して、順次ご答弁を申し上げます。

はじめに、(1)でございます。

本市では、年々増加する保育ニーズに対応するため、市内の民間保育所等の施設整備に対しまして、補助金の交付を行い、保育の定員枠の拡大を促進しております。

現在、2つの園において、施設の老朽化等に伴う改修工事に着手しているところでございまして、平成28年4月には、定員枠89人の拡大となる予定でございます。1つ目は、鷲宮地区で民間保育所を運営している社会福祉法人が、移転改築工事に合わせて、定員枠60人の拡大を、2つ目は、久喜地区で私立幼稚園を運営している学校法人が、施設の耐震改修に合わせて、0歳児から2歳児の保育室を新たに整備し、定員枠29人の拡大となるものであります。

また、電車通勤の保護者の利便性の向上を図ることを目的に、JR東鷲宮駅東側に所有する市有地に、平成29年度の開所を目指し、定員100人規模の民間保育所の誘致に取り組んでいるところでございます。

次に、(2)でございます。

本市では、ひとり親家庭の就業に向けた資格の取得や能力開発を支援するため、自立支援給付金制度を設けております。

この制度では、ホームヘルパー講座、パソコン講座、税理士講座など雇用保険法で定める教育訓練を受講し、所定の課程を修了した場合に受講経費の20パーセントを自立支援教育訓練給付金として支給をいたしております。

また、看護師や保育士、介護福祉士などの資格を取得するために、2年以上養成機関等で修業する場合に、生活費の負担軽減をはかり資格取得を容易にするため、修業期間の2年間について、市民税非課税世帯の方には毎月10万円を、市民税課税世帯の方には毎月7万500円を、高等職業訓練促進給付金として支給して

おります。

さらに、この養成機関での課程を修了した市民税非課税世帯の方には5万円を、市民税課税世帯の方には2万5千円を、高等職業訓練修了支援給付金として支給しております。

この他、埼玉県東部中央母子・父子福祉センターと連携して、市役所内に面接会場を設けて、個別に「母子及び父子並びに寡婦福祉資金貸付制度」の利用や就業支援サービス、並びに生活全般にかかる相談等の支援を行っているところでございます。

次に、(3)でございます。

東鷲宮地域の東鷲宮小学校及び桜田小学校の放課後児童クラブ利用児童数は、当該地域でのマンションの建設等に伴い、年々増加している状況にございます。

本市では、放課後児童クラブの環境改善のため、平成24年度から平成26年度にかけて、東鷲宮小学校の児童を対象とした放課後児童クラブを、鷲宮東コミュニティセンターの敷地内に、新たに、東鷲宮学童クラブとして、定員を40人から80人に拡大した施設整備を行ったところでございます。

また、桜田小学校学童クラブにつきましては、平成27年4月1日現在、定員60人を超える状況にございます。

本市といたしましても、施設整備の必要性は認識しているところでございますが、他の地域におきましても同様に、利用児童数が増加しているクラブもございます。このようなことから、平成25年度には、菖蒲地区の栢間小学校内及び鷲宮地区の鷲宮小学校内に学童保育専用施設の整備をし、平成27年度においては、栗橋地区の栗橋西小学校内及び栗橋公民館の敷地内に学童保育施設の整備を進めているところでございます。

今後も、本市全体の放課後児童クラブの利用状況等を勘案した上で計画的に整備をしてまいります。

次に、(4)でございます。

はじめに、JR東鷲宮駅北側の西大輪地下道につきましては、現地を確認したところ、電球が切れているものがございましたので、さっそく電球の交換を実施したところでございます。なお、照明を明るくすることにつきましては、照明機器の経年劣化等による故障の際に、より明るいLED照明に変更することを検討してまいりたいと考えています。

次に、JR東鷲宮駅南側の東西連絡地下道につきましては、現在、バリアフリー

化事業を実施しており、エレベーター及びエスカレーターの設置を進めております。これらの施設を設置することで、ベビーカーを利用される方や、お体の不自由な方に、安全・安心に東西間を通行していただけるものと考えております。

また、西側の斜路付階段につきましては、ご質問の通り急な勾配であることから、エレベーター及びエスカレーターの設置に併せ、勾配を緩くする計画としております。さらに、照明につきましても、これらの改修工事に併せ、より明るくなるよう、LED照明を設置する計画でございます。

○網野光議長

以上で、白石榮子議員の質問を打ち切ります。